

(4) 成果の公表(活動発表・論文執筆等)

- ・新聞各社(市民タイムス)による実施記事の掲載
- ・「まちづくり学習会」の学習成果の記録化に取り組み、リーフレットとしての刊行をめざす。

5. 地域プロスポーツチームと連携した食育・体育活動の取組み

人間健康学部健康栄養学科 長谷川 尋之

(1) 活動計画

2018年1月の連携協定を締結後、信州ブレイブウォリアーズは通算3シーズン目を迎え、その間で2度のB2リーグ優勝を経て、現在は国内のトップリーグであるB1リーグで活躍をしている。プロスポーツチームの「集客力(平均約1,700名)」「発信力(SNS登録数でトータル3万以上のフォロワー)」があり、コロナ禍にあっても一定の地域振興に価値をもたらすことができると考える。2020年度は、コロナ感染拡大の影響があり、アカデミックサポートを通じたチームおよび企業、関連団体との連携を進めることに専念せざるを得なかった。その中で信州ブレイブウォリアーズが主催し、本学の長谷川ゼミが協力して松本市の試合会場でチームと連携した食育セミナーを実施できた。

食育セミナーは、トップチームで得られたスポーツ栄養の知見を地域でスポーツをする子供および保護者への還元することを目的として行った。事業は感染拡大防止のため、会場のサイズから親子10組20名の予約制(事前予約で満席)で実施した。同日にこれとは別事業で、元選手によるバスケットボールのスキルスクールも行われ、食育セミナーと同様に予約制(子供のみ)で30名以上の参加者があった。同会場の同じ時間で実施したことは、参加者の分散に繋がり効率の良い集客とはいえない。一方、それぞれで集客できたことから、双方協力することで試合日のイベントに限らず、地域貢献に繋がるような単独の事業になる可能性が感じられた。コロナ感染が拡大した現在、Withコロナとして新しいスポーツの在り方、スポーツの力を地域に還元する方法を提案することが次年度の課題と考えられた。

そこで2021年度は、昨年度、チームや参加者から好評を得た食育活動に加えて、スポーツ選手が実施するような体力測定の実験会、スキルスクールなど

を組み合わせたスポーツ教室を地域貢献活動の軸に検討する。コロナ感染の影響もあり、子供が運動を実施する機会も減少傾向にあり、スポーツに触れ、再度スポーツの魅力を考える場として提供したいと考え、これまではトップチームとの連携が中心であったが、信州ブレイブウォリアーズのアカデミー事業部等と連携を密に行い、昨年は松本大会のみで実施したものを全県に広げられるよう尽力する。併せて、トップチームへのアカデミックサポートは継続し、県内の子供や保護者にトップアスリートのサポートで得られた最新の知見を提供することを目的として展開する。

(2) 共同活動者

株式会社信州スポーツスピリット(信州ブレイブウォリアーズの経営母体)

株式会社XYZ(信州松本ダイナブラックスの運営会社)

(3) 活動内容

2021年度は、コロナウイルス感染拡大が断続的に続いたことで、活動が大幅に制限されたため、活動の場を当初の協力者に限らず、地域活動として展開を行った。

① 地域プロスポーツチームの栄養サポートと情報発信

2018年1月の連携協定を締結後、信州ブレイブウォリアーズの栄養サポートは、通算4シーズン目を迎えた。2020年度では、コロナ感染拡大の初期と重なり、十分な対策をとることができなかったが、2021年度は、シーズン初期からコロナウイルス感染症に配慮した計画を立てることができた。本学の活動指針に基づき、2021年10月～2022年2月までに計3回(5回を

予定し、コロナウイルス感染症の影響で2回は中止)の補食サポートを実施した。

補食サポートでは、スポンサー企業と連携し、食材の一部提供、チームと連携したSNS発信を行うなど、選手の食に関する情報発信を行った。併せて、ホクト株式会社のホームページにおいて同情報の発信を行った。



地域企業と連携した栄養サポートの内容

②地域のバスケットボール選手に向けた教育活動

信州松本ダイナブラックスと連携して、2021年12月19日(日)、県内クラブチームのミニバス大会で栄養情報の発信、栄養教育活動を実施した。情報発信では、これまで本学で実施したトップアスリートの栄養サポートの知見を紹介するポスター、補食サポートとして実施した補食ボックスの展示を行った。また、栄養教育では食事バランスガイドを用いた自分の食事の振り返りを選手対象に行った。一方で、2月に本学、3月に伊那市体育館でプロチームと連携したバスケットボールスクールの開催を企画、準備を進めていたが、コロナ感染拡大の影響で中止した。

(4)成果



大会会場における栄養教育活動の様子



大会会場における栄養サポート媒体の展示の様子

上記①は、コロナ感染予防対策に準じて2021年10月9日、11月6日、12月4日の計3回の補食サポートを実施した。トップリーグに所属する選手の食事の摂取状況をチームスタッフと共有するとともに、選手の個別相談、対応を行うことで、アスリートの栄養摂取に関する知見を得ることができた。のし紙に記載した栄養情報等は、別途発信するとともに、②の活動においても情報発信、教育媒体として活用した。

上記②は、当初の計画に比べて、コロナ感染拡大の影響を受け、大幅な規模縮小となった。ミニバス大会主催の対策に準拠して、最小限の接触となる形式をとった。食事バランスガイドを用いた栄養調査では、約50名の子どもが参加した。また、信州松本ダイナブラックスの選手がデモンストレーションとして参加することで、子どもや保護者が食への関心をもつきっかけとなり、地域連携活動の付加価値の創出ができたと考える。また、同日開催だった本学の大学祭(オンライン開催)にて、上記①ならびに②の活動の公開を行い、広く周知に努めた。

本活動を通じて健康栄養学科(18N生)の学生が、信州松本ダイナブラックスに採用され、地域人材の創出にも繋げることができた(2022年4月30日付MGプレスにて紹介)。

(5)成果の公表(活動発表・論文執筆等)

コロナ感染の影響で活動規模が縮小したため、2021年度は大学ホームページ等での報告とした。今後、2022年度の活動と合算してまとめ、実践報告として論文執筆を検討している。